

「子の読書量 親に比例 厚労省調査」日本経済新聞 2010年7月20日刊を読む

### 子の読書量 親に比例

1. 父母が読書家であるほど子供(小学2年)が児童書や絵本を読む冊数が多いことが、19日までの厚生労働省の調査で分かった。子供の読書量は親にほぼ比例しており、同省は「親の読書習慣が大きく影響している」と分析している。
2. 同省は昨年、2001年に生まれた子供の発育や生活状況を追跡調査している「21世紀出生児縦断調査」の8回目調査として、小学2年となった子供約39000人に調査票を配布。約36000人の保護者が回答した。
3. 1カ月の母親の読書量が1冊の場合、子供は1冊が17.4%、2～3冊が34.1%、4～7冊が26.3%、8～11冊が9.0%、12冊以上が13.3%だった。
4. 母親の読書量にあわせるようにして子供の読書量も増え、母親が12冊以上の多読だと、子供も12冊以上が55.7%と半数を超えた。父親の読書量についてもほぼ同様の傾向だった。
5. 月に1冊以上の読書習慣のある母親の子供は、1冊が11.9%だったのに対し、12冊以上が18.0%。一方、読書習慣のない母親の子供は1冊が17.3%と高く、12冊以上は9.8%にとどまるなど、親の読書習慣が子供と密接な関係にあることが裏付けられた。

### [コメント]

学力の高い人は「読書による思慮深さ」を身につけていると言われる。子どもの読書量は親の読書量に比例するという調査結果は興味をひく。先生の読書量は児童・生徒・学生の読書量と相関関係があるのか、知りたいところだ。